

2026年5月期 中間期 決算説明資料



(東証プライム：3501) | 2026年1月



-  2026年5月期 中間期決算概況 P.03
-  2026年5月期 通期見通し P.18
-  中長期経営目標後半3カ年
「SUMINOE GROUP WAY STEP II (2025~2027)」進捗 P.21

2026年5月期 中間期 決算概況

2026年5月期 中間期 決算のポイント

- ✓ 売上高は、自動車・車両内装事業の自動車関連において、北中米拠点で前期に立ち上がったフロアカーペットが寄与し、車両関連では鉄道・バス生産回復需要を取り込んだほか、インテリア事業におけるスペース デザイン ビジネスが大きく伸長したことから、前年同期を上回りました。
- ✓ 営業利益は、原材料・エネルギー価格の高止まりに伴う価格改定効果の浸透などにより、前年同期を上回りました。
- ✓ 経常利益・中間純利益は、営業外損益として前年同期に計上した為替差損が為替差益に転じたことなどにより、前年同期を上回りました。

(単位：百万円)

	2026年5月期 中間期	2025年5月期 中間期	前年同期比増減		2026年5月期 中間期	期初計画比増減	
	実績	実績	(率)	(額)	期初計画 (2025/7/11付)	(率)	(額)
売上高	52,962	50,698	+4.5%	+2,264	51,460	+2.9%	+1,502
営業利益 営業利益率	886 1.7%	742 1.5%	+19.5%	+144	670 1.3%	+32.4%	+216
経常利益 経常利益率	1,187 2.2%	446 0.9%	+165.6%	+740	910 1.8%	+30.5%	+277
※ 中間純利益 中間純利益率	86 0.2%	65 0.1%	+32.1%	+21	100 0.2%	△13.2%	△13

(単位：円)

※ 当資料の中間純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を表しています。

為替レート 1 \$ =	146.09	152.50
-----------------	--------	--------

連結業績推移（売上高/営業利益）

壳上高 (左軸)

—●— 営業利益（右軸）

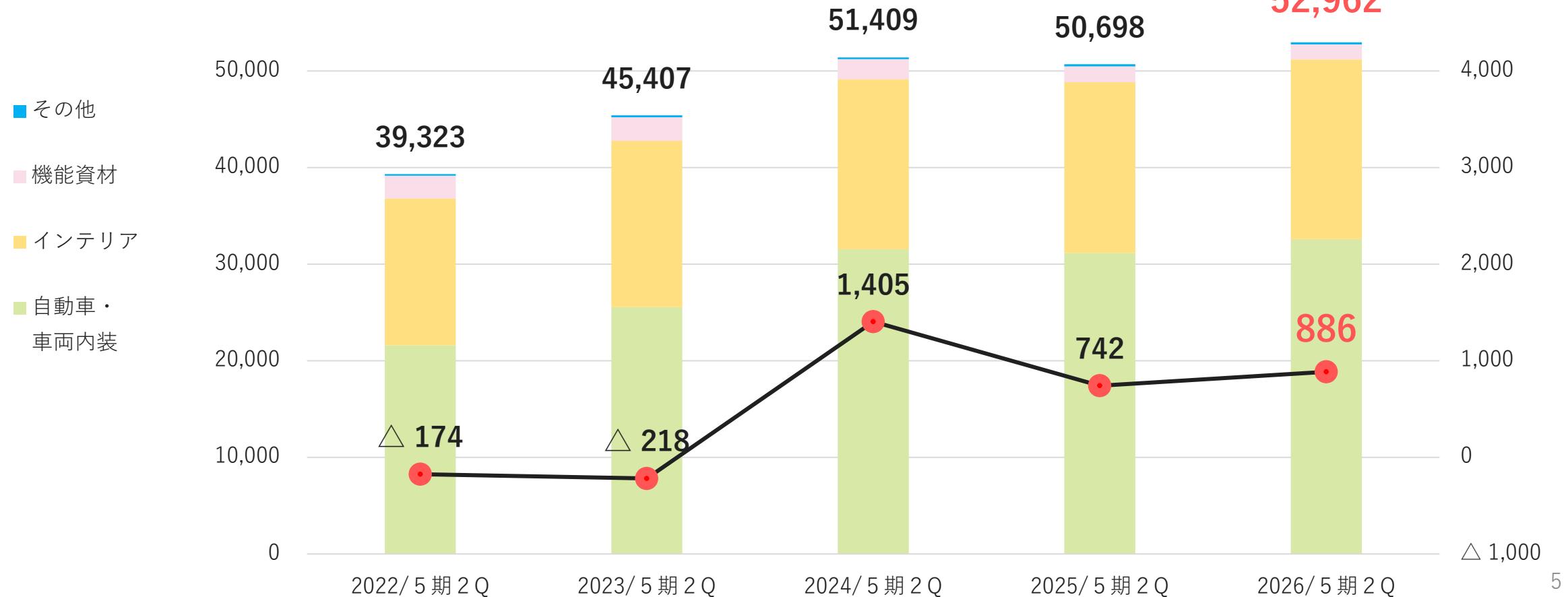
中長期經營目標



SUMINOE GROUP WAY
2022～2024～2027

(単位：百万円)

SGW STEP I (前半3ヵ年 2022~2024)



セグメント別内訳

(単位：百万円)

売上高		2026年5月期 中間期	2025年5月期 中間期	前年同期比増減		売上高比率 2026年5月期 中間期
				(率)	(額)	
	自動車・車両内装	32,591	31,157	+4.6%	+1,434	61.5%
	インテリア	18,598	17,679	+5.2%	+919	35.1%
	機能資材	1,565	1,636	△4.3%	△70	3.0%
	その他	206	225	△8.5%	△19	0.4%
	合計	52,962	50,698	+4.5%	+2,264	100.0%

セグメント利益		2026年5月期 中間期	2025年5月期 中間期	前年同期比増減	
				(率)	(額)
	自動車・車両内装	1,620	1,707	△5.1%	△87
	インテリア	297	74	+297.0%	+222
	機能資材	30	△31	-	+61
	その他	52	36	+44.2%	+15
	調整額	△1,113	△1,045	-	△67
	合計	886	742	+19.5%	+144

増収減益となりました。

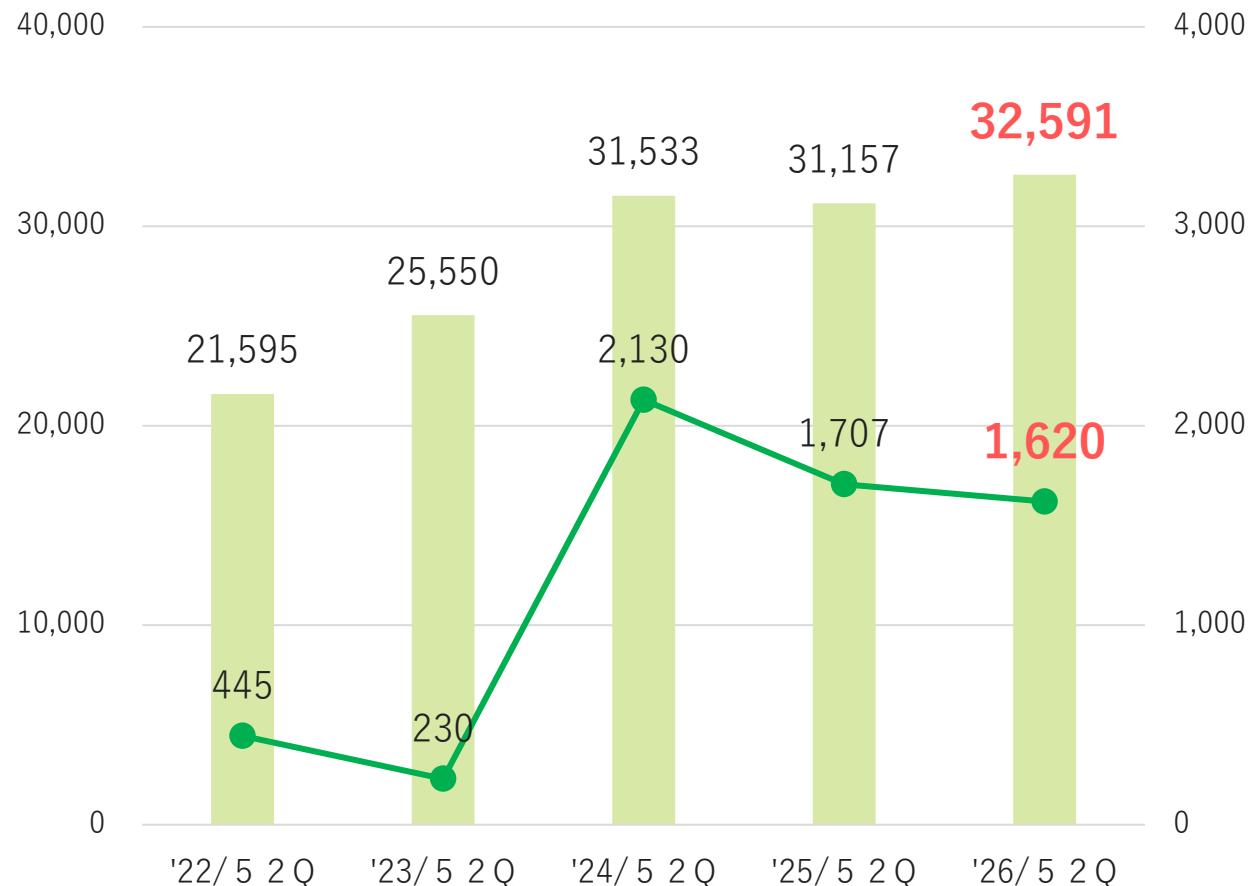
- ✓ 売上高は、前期に立ち上がったフロアカーペットの販売や鉄道・バスの生産回復需要などにより、前年同期を上回りました。
- ✓ セグメント利益は、北中米拠点での新規受注に伴う生産効率の低下などにより、前年同期を下回りました。

(単位：百万円)

■ 売上高（左軸）

● セグメント利益（右軸）

事業別売上高の詳細は
次のスライドでご説明します



自動車内装 (国 内)

売上高
前年同期比
+2.7%



- 受注車種の生産台数増加
- 一部車種の新モデルへの切り替え前の駆け込み需要による増加

自動車内装 (海 外)

売上高
前年同期比
+5.5%



- 販促活動が奏功しカーマットやフロアカーペットの販売堅調（北中米）
- 新規車種の立ち上がりの寄与（東南アジア）
- 為替影響による減収
- 日系自動車メーカーの生産縮小（中国）

車 両 内 装

売上高
前年同期比
増加



- インバウンド増加に伴う鉄道・バス向け内装材需要に
関織物株式会社との連携による製販一貫体制での確に対応
- コロナ禍で延期されていた鉄道リニューアル工事を含む受注増加

增收増益となりました。

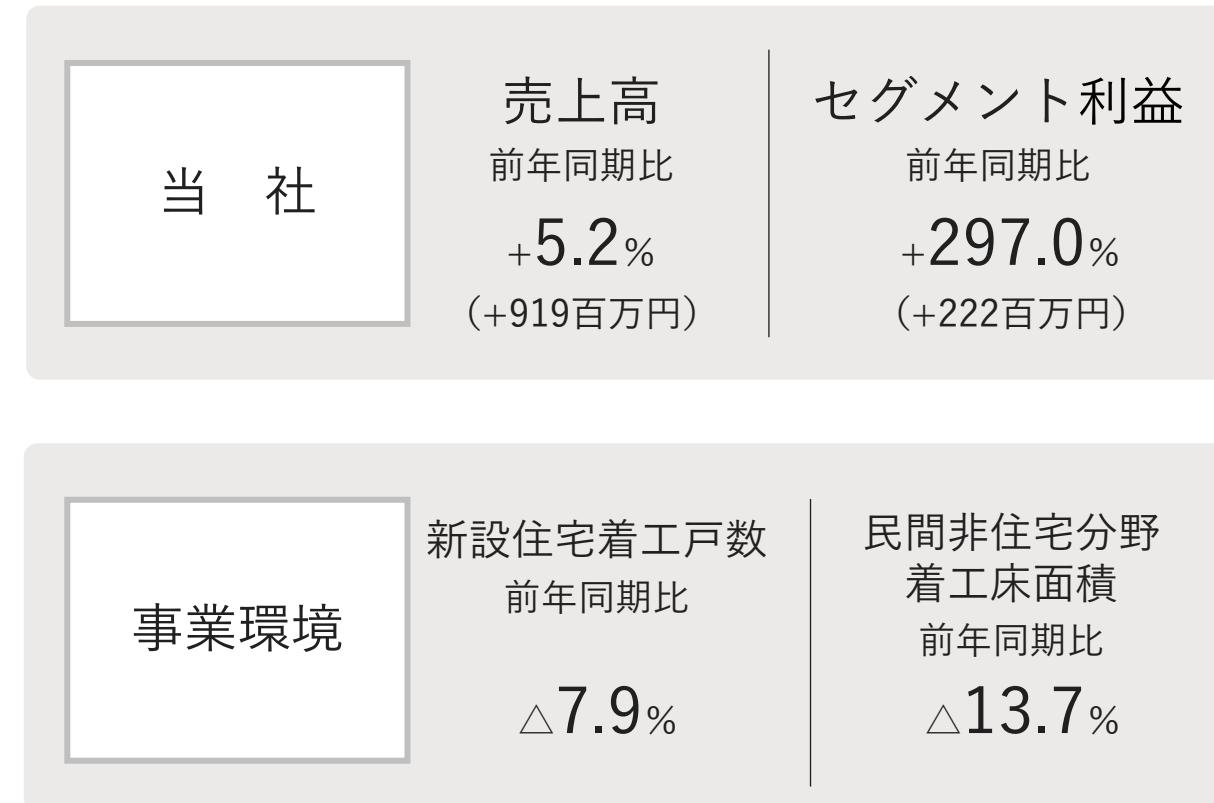
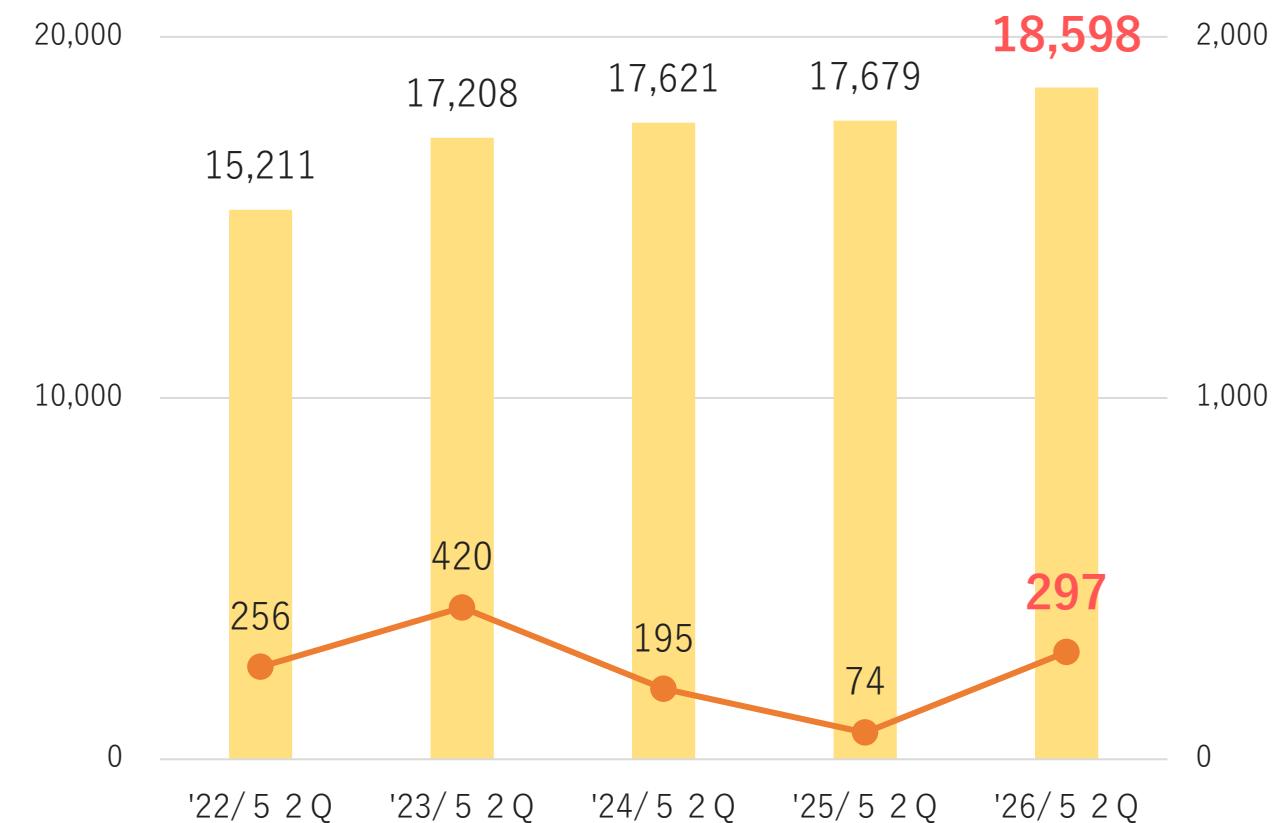
- ✓ 売上高は、タイルカーペットの納入物件数やショップ内装などの受注が堅調となり、前年同期を上回りました。
- ✓ セグメント利益は、前期に実施したタイルカーペットや壁紙の価格改定効果などにより、前年同期を上回りました。

(単位：百万円)

■ 売上高（左軸）

● セグメント利益（右軸）

品種別売上高の詳細は
次のスライドでご説明します

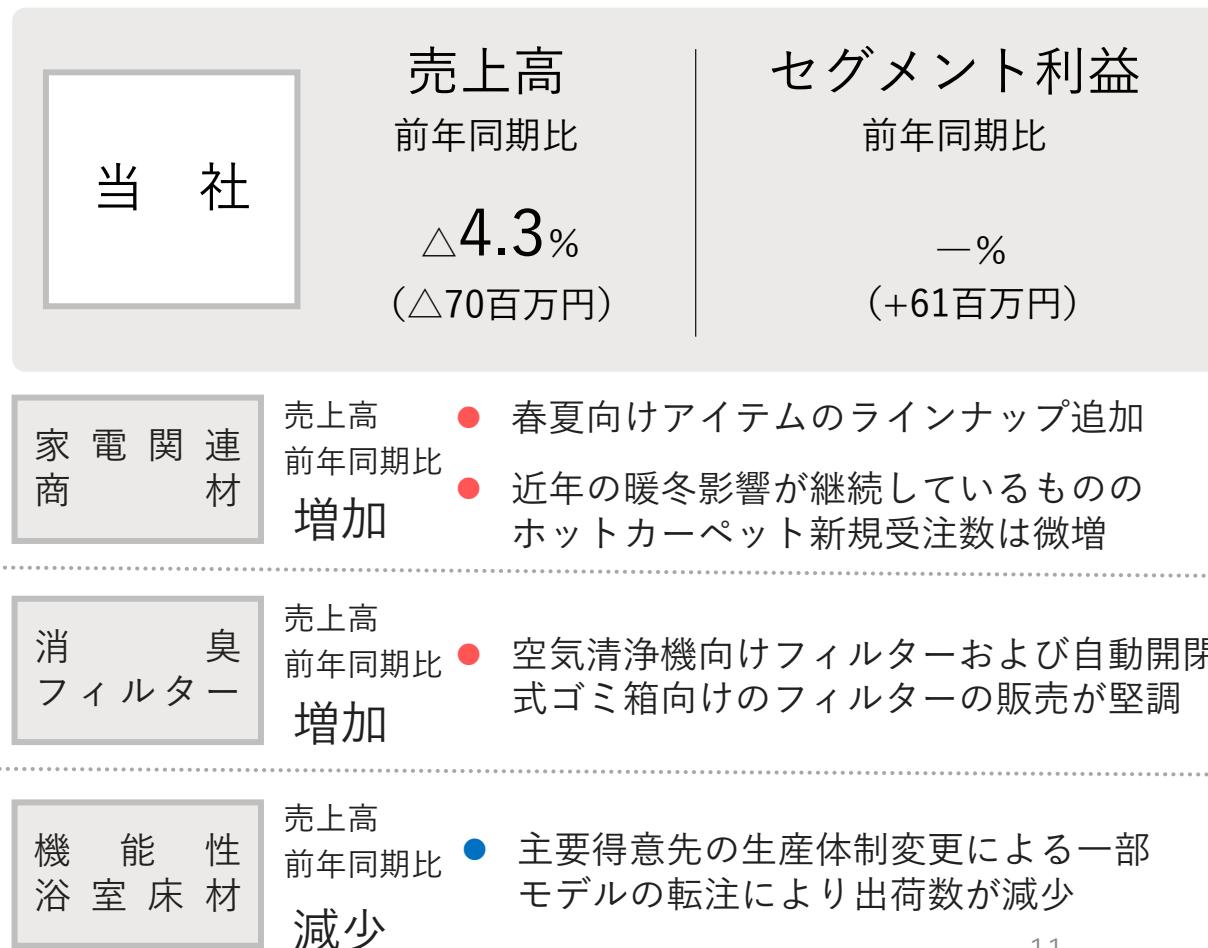
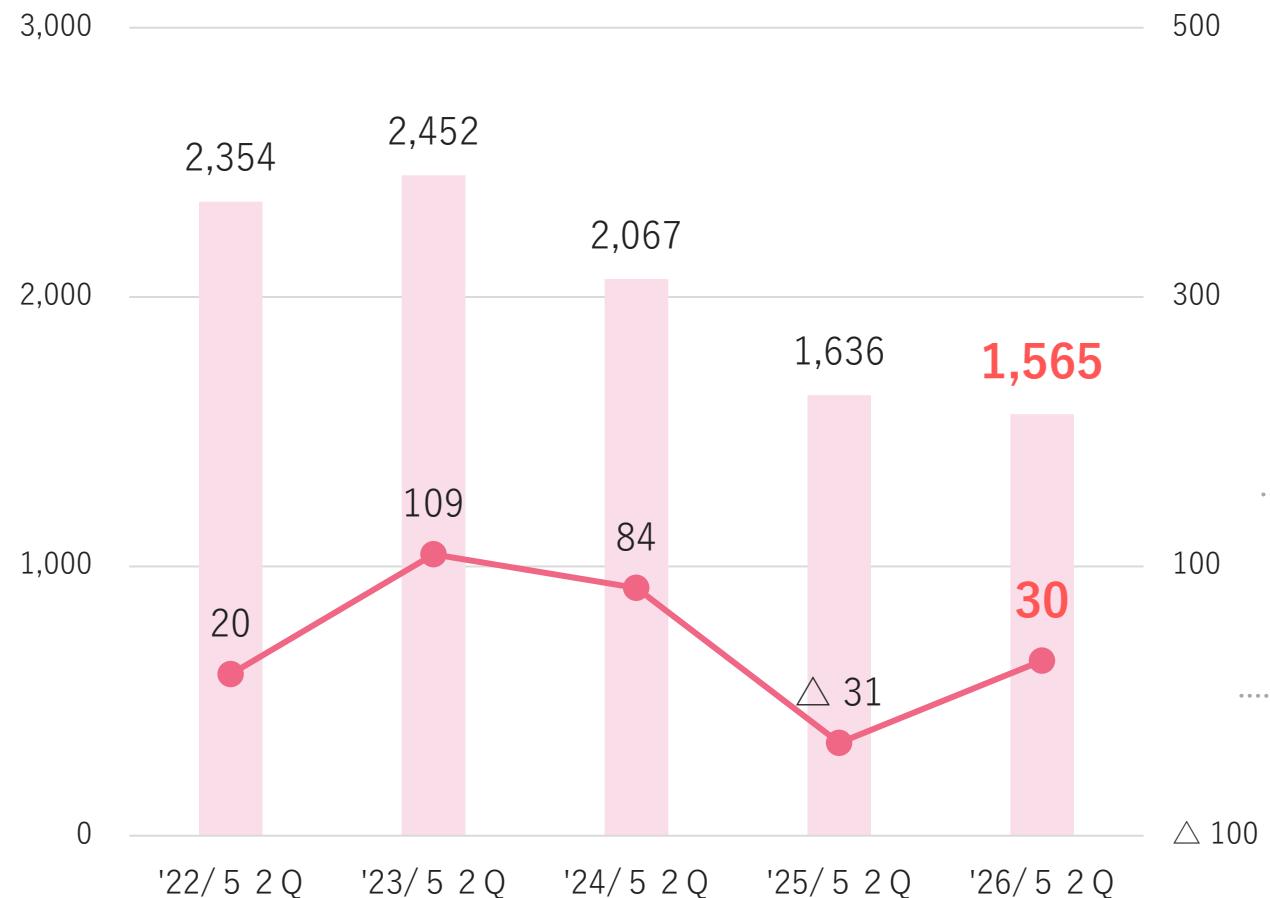


業務用カーペット	売上高 前年同期比 +4.2%		<ul style="list-style-type: none"> ● 水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」の資源を未来へつなげるというブランド価値訴求の継続により、納入物件数が増加 ● ハイブランドショップ向けのロールカーペットの堅調な受注
家庭用カーペット	売上高 前年同期比 △7.2%	 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中高級ゾーンに対応するラグマットなどの新たな販路開拓や他社との差別化を目指す販売戦略の見直しに注力 ● 市況低迷による販売競争の激化
カーテン	売上高 前年同期比 △5.6%	 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般家庭向け「U Life（ユーライフ）カーテンVol. 11」の販売が伸長 ● 2025年7月に新発売した一般家庭向け「mode S（モードエス）カーテンVol. 11」の市場への浸透遅れ
壁装関連	売上高 前年同期比 +6.5%		<ul style="list-style-type: none"> ● 原材料・エネルギー価格の高止まりを踏まえた壁紙の価格改定が奏功 ● 遮熱性・防犯性を備えたウインドウフィルムの販売貢献
スペザインス	売上高 前年同期比 +25.5%		<ul style="list-style-type: none"> ● 得意先の出店数拡大などに伴いショップ内装などの受注物件数増加

減収増益となりました。

- ✓ 売上高は、家電関連商材の新たな春夏向けアイテムのラインナップ追加などがあった一方、浴室床材の一部モデルの転注影響などにより、前年同期を下回りました。
- ✓ セグメント利益は、採算性向上を目的としたベトナム工場の生産体制再編や物流費の抑制により、前年同期を上回りました。

(単位：百万円) ■ 売上高（左軸） ●・△ セグメント利益又は損失（△）（右軸）



連結バランスシート

(単位：百万円)

	2025年5月期	2026年5月期 中間期	前期末比増減
流動資産	54,931	56,109	+1,178
有形固定資産	31,376	31,641	+264
無形固定資産	1,605	1,519	△85
投資その他の資産	7,064	7,907	+842
資産 計	94,976	97,177	+2,200

- うち、増加（現金及び預金）
 - 前期末比+1,231百万円の10,079百万円
- うち、減少（棚卸資産）
 - 前期末比△107百万円の16,989百万円
(為替差+55百万円 実力差△162百万円)

	2025年5月期	2026年5月期 中間期	前期末比増減
流動負債	42,606	43,865	+1,258
固定負債	15,206	14,955	△251
負債 計	57,813	58,820	+1,007
純資産	37,163	38,356	+1,192
負債・純資産 計	94,976	97,177	+2,200

- うち、増加（借入金（リース債務除く））
 - 前期末比+1,356百万円の22,281百万円
- うち、減少（利益剰余金）
 - 前期末比△195百万円の12,162百万円
- うち、増加（自己株式）
 - 前期末比+30百万円の△2,945百万円

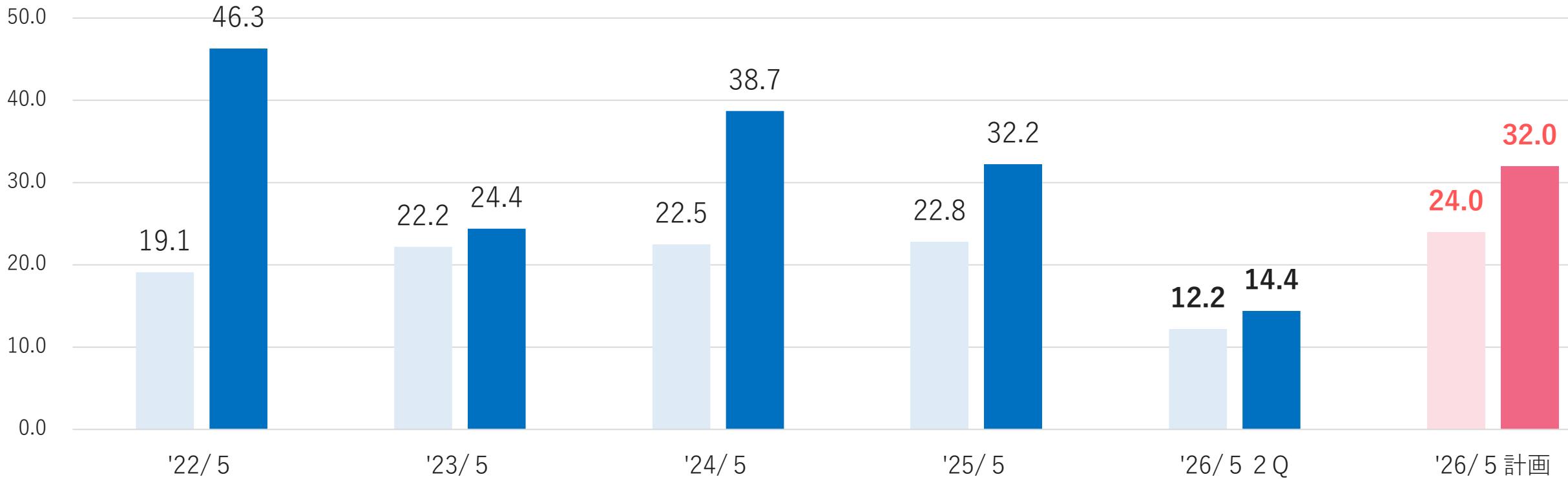
設備投資の主な案件

2026年5月期 中間期

- ・基幹システムの再構築
- ・メキシコ子会社 ラミネート加工設備の導入

■ 減価償却費 ■ 設備投資

(単位：億円)





フライングフェザーが日本自動車殿堂の歴史遺産車に選出

フライングフェザーは、戦後間もない時期に、住江織物株式会社（現 SUMINOE）の子会社で自動車ボディ製造を手掛けていた「住江製作所」が製造した軽自動車です。

そのフライングフェザーが、特定非営利活動法人日本自動車殿堂が登録し永く伝承する「歴史遺産車」に選出されました。

「歴史遺産車」は、自動車産業、自動車交通、自動車文化の発展に貢献した歴史に残すべき自動車と定義されており、「フライングフェザーの構想と先進性は、1960年代に一大ブームとなった軽自動車の嚆矢といえるもので、日本の歴史遺産車としてふさわしいものである。」と評されました。



2025日本自動車殿堂
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME
歴史遺産車
HISTORIC CAR OF JAPAN



2025日本自動車殿堂表彰式

スペース デザイン ビジネスの拡大

2025年11月、株式会社プレテリアテキスタイルが、FDベイホールディング株式会社の事業の一部である法人営業部デザインセンター事業を取得しました。創業地である大阪や首都圏に加え、名古屋地区にも拠点を置き、スペースデザインサービス体制を強化します。

取得事業概要（本件は事業の取得であり、株式の取得ではありません。）

- 名称 FDベイホールディング株式会社法人営業部デザインセンター事業
(FDベイホールディング株式会社における、家具・インテリアの販売や内装提案事業)
- 所在地 愛知県名古屋市
- 事業内容 家具・インテリアの販売、マンション・戸建住宅・商業施設の内装提案

「空間」全体をデザインするスペース デザイン ビジネス



PRETERIOR TEXTILE

株式会社プレテリアテキスタイル

内装仕上工事・
インテリアオプション販売



レジデンシャル空間（戸建住宅・マンション）



内装設計・デザイン
施工および監理業
特注家具製作販売



BAYCREW'S STORE OUTLET
軽井沢アウトレット

伝統技術の継承

SUMINOE GROUPは近年、非纖維分野への取り組みやさらなるグローバル化など変革を進める一方で、祖業である手織緞通（絨緞）などの美術工芸織物の製造には変わらず携わっています。

2025年には、国會議事堂 衆議院議場への絨緞納入、東京宝塚劇場への緞帳納入などを行いました。

日本の歴史的産業である伝統技術を守り育んでいくことは、140年以上続く当社グループの使命であり文化への貢献と考え、これからも製織技術の継承と向上に努めています。

国會議事堂 衆議院議場(本会議場) 絨緞 (2025年2月納入)



通路



議長席

東京宝塚劇場 緞帳 (2025年10月納入)



リニューアルした緞帳



丹後テクスタイル 緞帳製作の様子

研究開発体制の強化と新規商材の育成

SUMINOE GROUPでは、技術・生産本部が持つコア技術をベースに、各事業の開発チームと連携し製品展開をしています。近年では、織・編製造技術にセンシング技術を組み合わせた「ヒト・モノ判別センサ」や「水濡れ・ムレ検知システム」といったスマートテキスタイルの開発にも注力し、介護分野や工業分野での活用に向けて検討を進めています。

技術・生産本部 主要技術一覧

開発の基本理念	コア技術	要素技術	開発の基本理念から生まれる技術・製品	技術・製品展開事業
健康 (K)	機能付与技術	抗菌・制菌	銀抗菌・キトサン加工	
		抗菌・抗ウイルス	Vguard	
		アレル物質吸着	アレルブロック®	
環境 (K)	機能付与技術	吸着分解	エチレン吸着分解加工	
		防汚	撥水・撥油加工	
	樹脂配合技術	OHフィルム		
			PHフィルム	
		多層積層	浴室床材	
リサイクル (R)	織・編製造技術+センシング技術	回路・配線／データ解析	ヒト・モノ判別センサ <small>※周辺に飛んでいる電磁波を有効利用し、生体か物体かを判別。</small>	
	混練技術	混練	水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」	
	再資源化技術	紡糸	ペットボトル由来の再生ポリエチレン糸「スマトロン®」	
			廃棄漁網由来の再生ナイロン糸「SEACLE(シークル)」	
	バイオマス材料の活用	混練	木粉混オレフィン系シート <small>※バイオマス材料を製品に活用することで、CO₂削減等の環境負荷低減に寄与。</small>	
アメニティ： 快適さ (A)	樹脂配合技術	制振	制振シート「ブルピタ®」	
	機能付与技術	消臭	トリプルフレッシュ®	
		忌避	防ダニ加工	
			防虫・防蚊加工	
	織・編製造技術+センシング技術	回路・配線／データ解析	水濡れ・ムレ検知システム「Swetty」 <small>※導電糸を用いた布帛センサで、水やムレ（微量）を計測。</small>	

開発中技術 インテリア事業 自動車内装事業 車両内装事業 機能資材事業

ヒト・モノ判別センサ

布でヒトとモノを判別できるもので、自動車のシートベルト誤作動や置き去り防止システムなどへの活用を検討しています。



水濡れ・ムレ検知システム「Swetty」

布で水濡れ・ムレ状態を検知することができ、電車シートの濡れ把握やおむつ着用者向け排尿検知の用途を想定しています。介護施設では実証事業を行い、改善点の検討を行いました。また乾燥状態も検知できるため、工事現場での漏水・乾き検知システムとしての用途も検討しています。



2026年5月期 通期見通し

2026年5月期 通期見通し

- これまでに進めてきた北中米拠点の事業構造改革が功を奏し、想定どおりに受注が増加していることに加え、平均為替レートが計画に対し円安基調で推移しており、売上高の押し上げ効果を見込んでいます。引き続き北中米拠点において、合成皮革工場での高品質製品の安定供給に向けた生産体制構築に注力する一方、自動車メーカーの生産計画変更や新規受注に伴う生産効率がリスク要因となっており、これらの影響に対応するため、日本からの技術支援を含めた改善活動を進めています。

(単位：百万円)

	2026年5月期	2025年5月期	前期比増減	
	計画	実績	(率)	(額)
売上高	105,000	104,791	+0.2%	+208
国内	69,400	69,507	△0.2%	△107
海外	35,600	35,283	+0.9%	+316
営業利益	3,100	3,001		
営業利益率	3.0%	2.9%	+3.3%	+98
経常利益	3,350	2,514		
経常利益率	3.2%	2.4%	+33.2%	+835
当期純利益	1,500	669		
当期純利益率	1.4%	0.6%	+123.9%	+830

(単位：円)

為替レート 1 \$ =	144.00	152.60
-----------------	---------------	--------

2026年5月期 事業セグメント別見通し

(単位：百万円)

売上高		2026年5月期	2025年5月期	前期比増減	
		計画	実績	(率)	(額)
	自動車・車両内装	63,170	63,478	△0.5%	△308
	インテリア	38,740	38,264	+1.2%	+475
	機能資材	2,620	2,566	+2.1%	+53
	その他	470	481	△2.4%	△11
	合計	105,000	104,791	+0.2%	+208

セグメント利益		2026年5月期	2025年5月期	前期比増減	
		計画	実績	(率)	(額)
	自動車・車両内装	4,300	4,094	+5.0%	+205
	インテリア	1,150	1,023	+12.4%	+126
	機能資材	20	△124	-	+144
	その他	120	86	+38.1%	+33
	調整額	△2,490	△2,077	-	△412
	合計	3,100	3,001	+3.3%	+98

自動車・車両内装

- メキシコ子会社の合成皮革工場での生産効率改善や、タイ子会社に新設した合成皮革仕上げラインの稼働により、顧客のニーズに対応する高品質な製品の安定的な供給に努めます。
- 鉄道・バス向けともに回復傾向が続く需要を取りこぼすことなく対応するとともに、鉄道各社における安全・防災対策の取り組み強化のニーズに応える提案を進めます。

インテリア

- 中高級ゾーンに対応する付加価値型製品群のラインナップ拡充による顧客への訴求力向上と、新たな販路へ展開する施策を実施し、さらなるSUMINOEブランドの認知向上に取り組みます。

機能資材

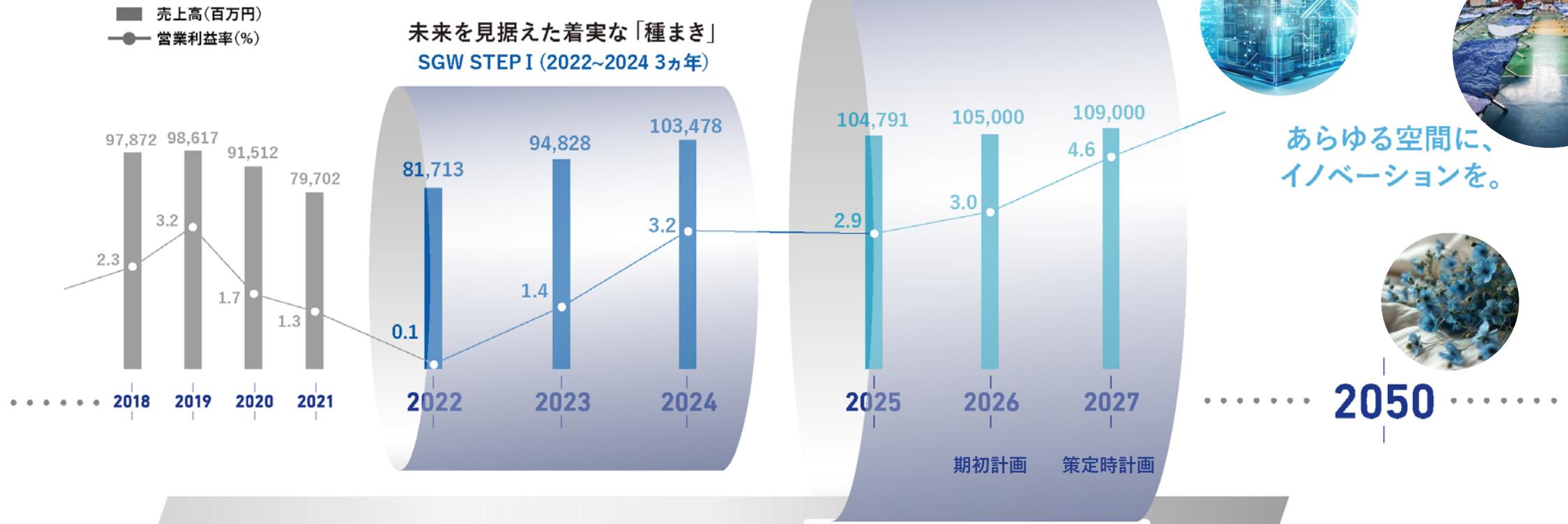
- 近年の季節動向を鑑みて、春夏向け家電関連商材を上市しました。就寝時に使用する接触冷感生地の敷マットなど、今後新たな主力製品としての成長を見込んでいます。

中長期経営目標後半 3 カ年
「SUMINOE GROUP WAY STEP II (2025~2027)」
進捗

SUMINOE GROUP WAYの概要

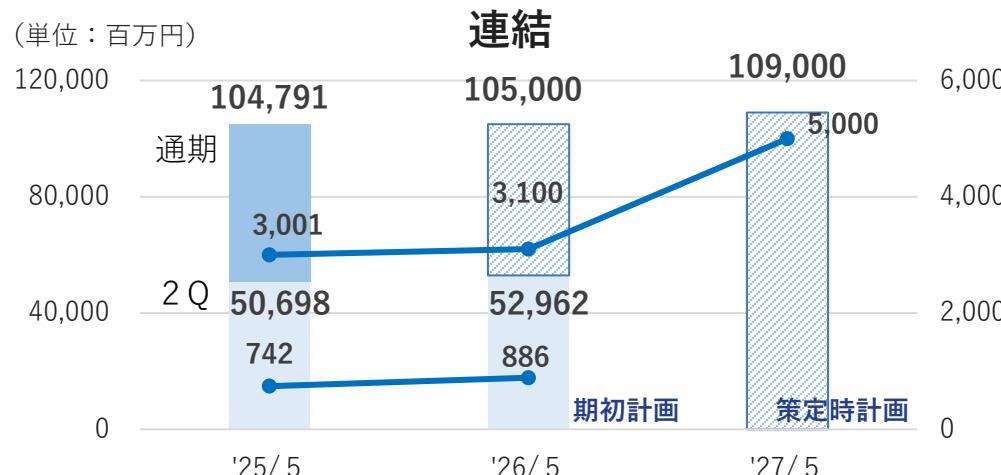
未来に向けて着実に「変わる」ため、中長期経営目標を策定しました。

SGW (SUMINOE GROUP WAY) と名付けたこの計画は2期・6年において、既に進行中です。

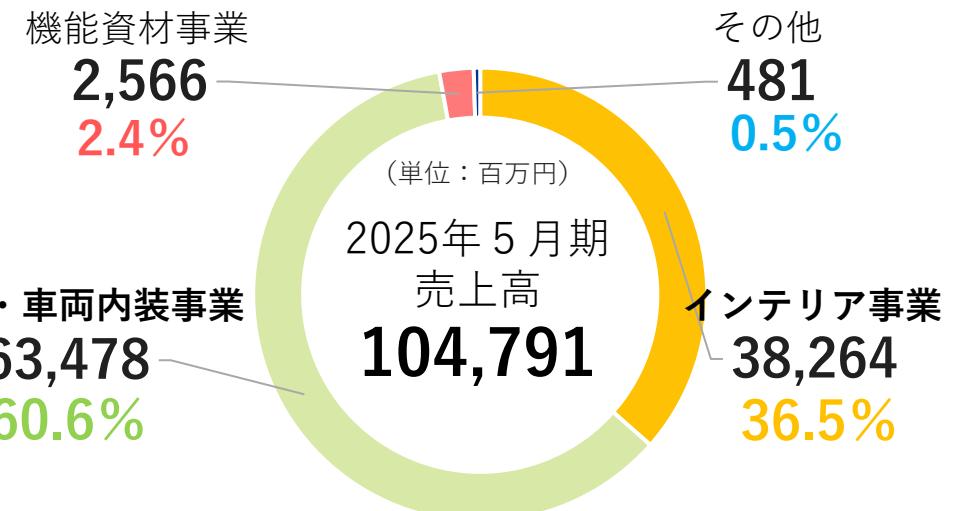


SGW STEP II の連結収支計画・実績

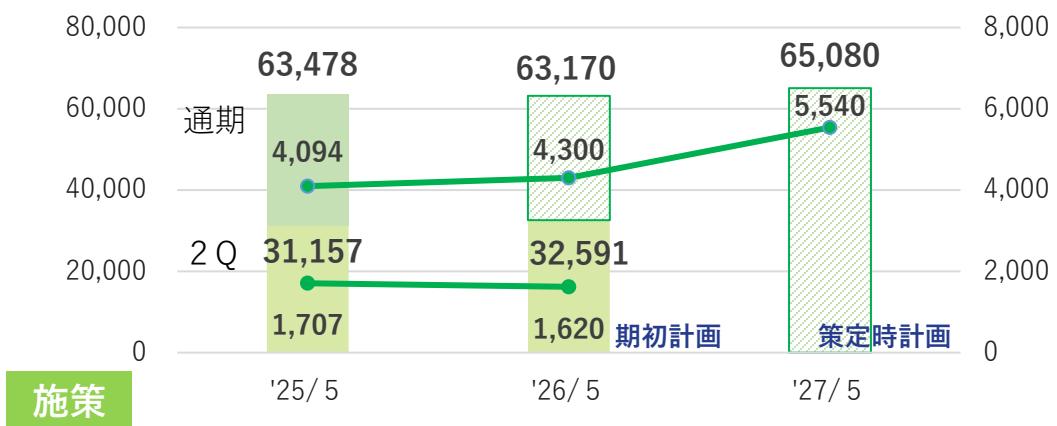
■ 売上高 実績 ■ 売上高 計画（左軸）
● セグメント利益（右軸）



売上高比率（前期実績）

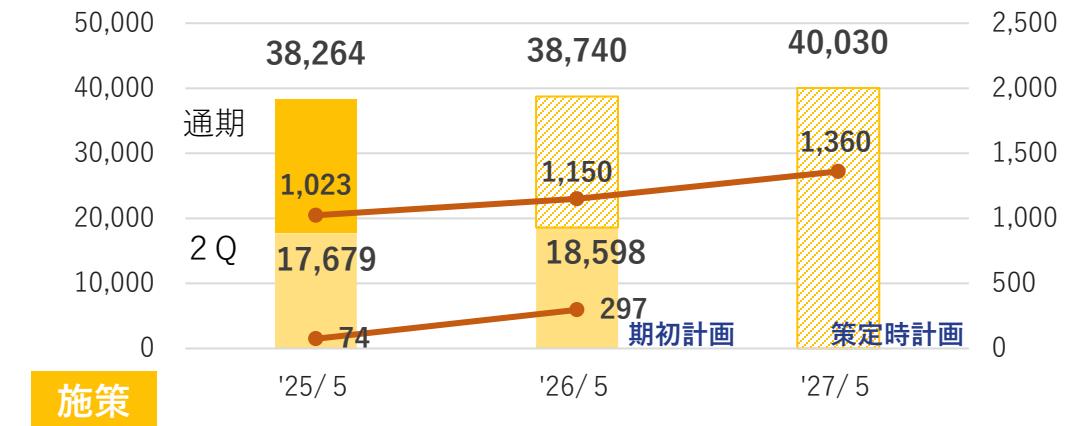


自動車・車両内装事業



- 合成皮革工場の設立による新たな展開への種まき
- 北中米市場での認知拡大により外資系メーカーからの受注を獲得

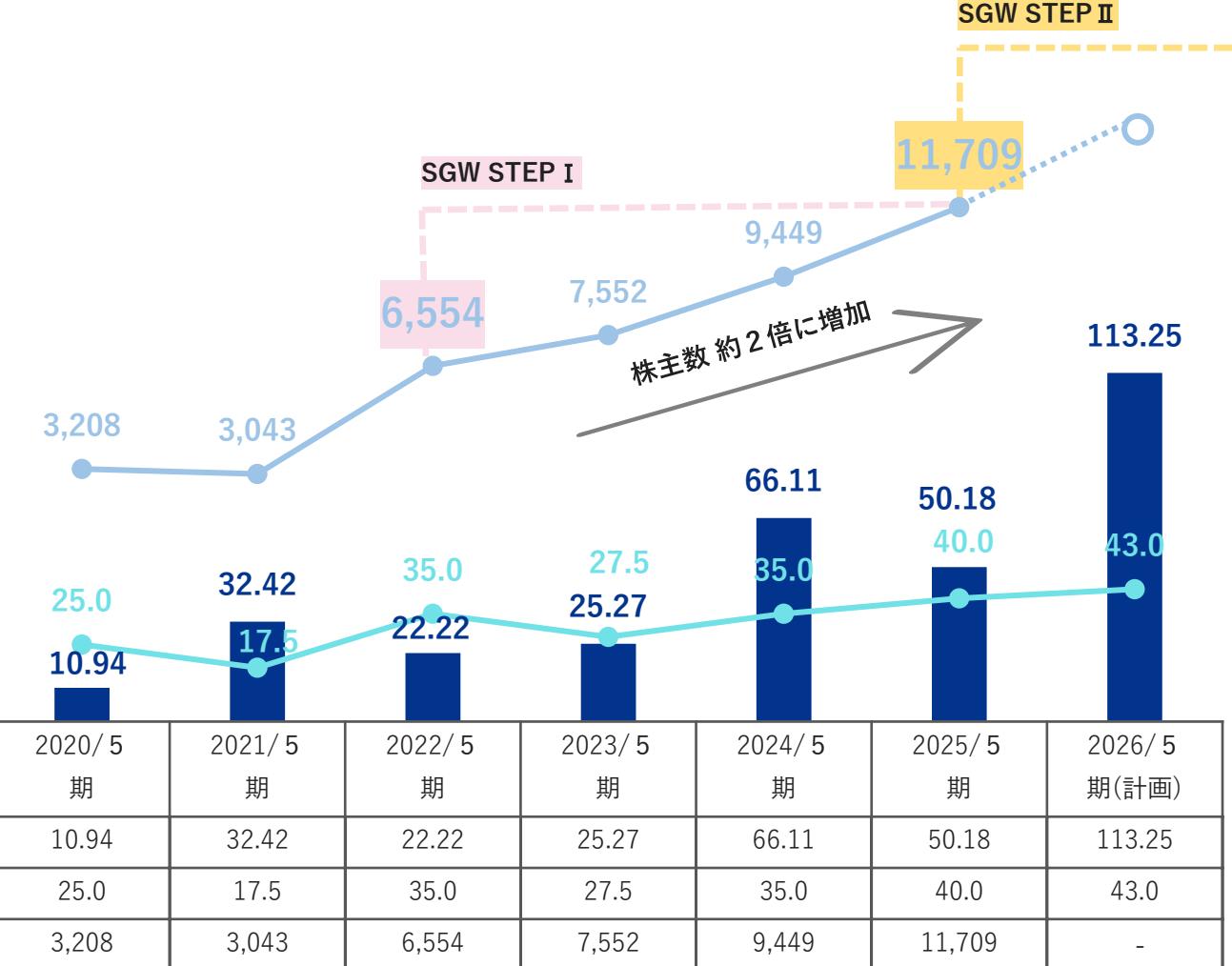
インテリア事業



- 中高級ゾーンに対応する付加価値型製品群のラインナップ拡充
- スペース デザイン ビジネスの拡大

株主還元の強化

株主のみなさまへの利益還元を重要な経営課題と考えています。安定的な配当と業績の動向を勘案しながら、適正な成果の配分を継続していきます。また、当社は2025年3月1日を効力発生日とする株式分割（分割比率1対2）を行っています。



※ 当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり当期純利益および1株当たり配当金は当該株式分割調整後の数値を記載しています。

株主還元方針

安定した株主還元

01 配当時期については、中間および期末の年2回を基本とします。

02 急激な環境悪化など不測の事態を除き、下限35円を維持します。

継続的な還元拡充

03 配当性向33%から38%に引き上げます。2027/5期は年間配当金70円を目指します。

04 自社製品を含む株主優待制度を引き続き実施します。

※ 株式分割に伴い、2025年度より贈呈基準株式数および贈呈内容を変更（拡充）しました。

ご清聴ありがとうございました。

当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社グループの今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、
現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、
実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。